

「あおもり家庭教育アドバイザー養成講座 第1回」

中南地区：令和5年6月15日（木）弘前市総合学習センター 参加者11名

下北地区：令和5年6月21日（水）下北文化会館 参加者12名

1 趣旨

地域における家庭教育支援体制を整備するため、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人材を「あおもり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する。

2 内容

【オリエンテーション】県総合社会教育センター職員

【講義】「本県における家庭教育の現状と課題、そして解決に向けて」

県総合社会教育センター 教育活動支援課長

【講義】「家庭教育支援者の役割・心構え」

講師 特定非営利活動法人 はちのへ未来ネット

代表理事 平間恵美



3 講義要旨

「本県における家庭教育の現状と課題、そして解決に向けて」

- ・核家族化、共働き世帯やひとり親世帯の増加に伴い、親が祖父母などから子育てに関して学ぶ機会も少なくなっており、相談・協力できる人が家族にいないなど、親だけで子育てを担わなくてはならなくなっている。
- ・子どもたちの今の状況として、児童虐待相談対応件数の増加、不登校出現率の増加、肥満傾向が高い等がある。
- ・これら課題解決のためには、社会全体で家庭教育を応援していく取り組みが必要である。

「家庭教育支援者の役割・心構え」

- ・「見ようとしなければ何も見えない」…家庭環境の複雑化で社会とつながりにくい子どもたちが増加。だからこそ、地域とのつながりが重要である。
- ・理解ある人の支援とは…「理解しようとする気持ち」「子育て世代の通訳」「同じ地域の仲間という気持ち」
- ・地域で子どもが、みんなが幸せに安全に生活するためには、「少数の専門家より多数の理解のある人」が必要である。
- ・ネットワークの力で子どもと親の「育ち」を応援しよう。子どもと親が希望と安心を持って幸せに暮らせる地域作りがみんなの幸せにつながる。

4 アンケート結果から

受講結果に満足	100%	どちらかと言えば満足	0%
どちらかと言えば不満	0%	不満	0%

- ・平間先生のご講義の中で、「少数の専門家」よりも「多くの理解ある支援者」の方が必要だということが、心に残りました。支援が必要な方と寄り添って一緒に考えようとする人とを、どう繋げていくかが行政側としてもキーワードとなっているので、何ができるのか落とし込んで、今後行動に繋がりたいと感じました。
- ・私も何かやってみたいと思いました。胸にこみ上げてくるものがありました。少しのことでもいいから、まず動き出してみようかなと思いました。
- ・平間先生のお話を聞いて、改めて横の繋がりが大事だと実感しました。幼児教育に関わる者として、自分たちにできることを考え、実行していきたいと思います。
- ・地域で繋がることの重要性を学べてよかったです。小さいことでも繋げられるかを考えて、どんどん行動していきたいと思いました。子どもの様子を見る目を養っていきたいと思いました。

本講座の初回にふさわしく、家庭教育支援者として地域の子育て支援に携わりたいという方の意欲が更に高まった回になりました。第2回以降も、講座の様子をお伝えしていきます。